

≪ 新潟学コース ≫ 「 ミュージアムから見た新潟 」

1 趣旨

それぞれのミュージアムが持つ特色をふまえ、歴史、美術、産業、自然科学、個人の偉業などさまざまな角度から新潟を見つめてきた専門家たちが語る深くて魅力的な新潟の話。新潟市域外からの視点も織り交ぜ、より高度で豊かな新潟の理解を目指します。なお、本講座は市民提案講座のご提案内容を一部反映しています。

2 学習方法

前期：講義 後期：ゼミナール・現地学習 水曜日 午後2時～4時

3 希望曜日・時間

4 講座コーディネーター

新潟市新津美術館 前館長 横山 秀樹、北方文化博物館 学芸員 田中 茉莉恵

全回 対面講義

5 プログラム・指導講師

回	月日	テーマ	内容	講師
1	6/9	多彩なる新潟文化の源流	国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭のテーマでも取り上げられた「文化の丁字路」新潟。特に美術の視点からその流れを見つめます。	新潟市新津美術館 前館長 横山 秀樹
2	6/16	「豪農の館」を支えた大地～ 沢海(そうみ)とその周辺～	江戸初期、阿賀野川と小阿賀野川の分岐する地に沢海藩の屋敷がありました。この地に誕生した豪農の館「北方文化博物館」の背景を紹介します。	北方文化博物館館長 神田 勝郎
3	7/7 公開	千曲川と信濃川～流域の文化と特徴～	信濃川・千曲川は、越後と信濃の文化・物資等を繋いできました。川を通して両国の文化を多角的に眺め、新潟が持つ特徴を学びます。	長野県立歴史館館長 笹本 正治
4	7/14	燕の金属産業と新潟	燕市は日本を代表する金属加工産地です。なぜ、燕市が世界有数の金属加工産地に成り得たのか。その背景に潜む物語を学びます。	燕市産業史料館 主任学芸員 齋藤 優介
5	7/21	「大日本地名辞書」を独力編さんした吉田東伍と「郷土」	郷土の大地こそが「日本」の風土を組み立てており、たった独りで国中の「郷土」を集大成した超人学者の吉田東伍。東伍が見据えていた郷土の未来を学び、考えます。	阿賀野市立吉田東伍 記念博物館元館長 渡辺 文男
6	7/28	高田築城 豊臣・徳川の支配と「越後の都」	越後国府の地位を引き継いだ高田城とその城下町。最後の「越後の都」となった高田築城の時代背景を探ります。	上越市立歴史博物館 副館長/学芸員 花岡 公貴
7	8/4	新潟の人々と植物の関わり	新潟に生えている樹木の種類やその役割、また身近な街路樹についてなど、新潟の人々と植物についての関わりを幅広く学びます。	新潟県立植物園園長 倉重 祐二
8	8/18	水族館から見た新潟の魅力	対馬海流に沿った日本海の生物、川や潟・田んぼなどの身近な水辺の生物、これらの飼育や展示を通して見える新潟の姿を伝えます。	新潟市水族館展示課 長 野村 卓之
9	8/25	企業美術館から新潟市民へのメッセージ	コンクールによる若手作家の育成や、美術コレクションの企画展示など、活動を通じた新潟市民との関わりを見つめ直します。	雪梁舎美術館理事長 捧 実穂、 新潟市新津美術館前館長 横山 秀樹
10	9/1	総括 博物館で新潟を学ぶこと～博物館学から～	館種、設置者、運営主体が多様化する博物館業界の背景をふまえ、より良い社会のために博物館が果たす役割や未来への可能性を探ります。	新潟市新津美術館 前館長 横山 秀樹

主に前期講座を踏まえた新潟市内のミュージアムを巡る現地学習会を3回程度行います。また、博物館に関するテーマを設定し、関連する講師の支援でグループディスカッションを3回程度行います。